

(経過)

- 0820 名古屋空港内・中日本航空事務所に集合し、打ち合わせ。天候に問題ないとのことで、三河湾北西端の定点から調査開始とする。
- 0854 離陸。陸上を飛び、ライン16(定点31)へ向かう。
- 0912 ライン16(定点31)着、観察開始。ほぼ風なし。べた風ぎ。曇天。風力0, グレア1/3。
- 0914 ライン16(定点32)着、観察終了。発見なし。
- 0918 ライン17(定点33)着、観察開始。風力1, グレア1/3。
- 0922 ライン17(定点34)着、観察終了。発見5群9頭(親子2組)。
- 0926 ライン18(定点35)着、観察開始。途中、島で2回中断。風力1~3(一時、片側で風力3になる), グレア1/2。
- 0936 ライン18(定点36)着、観察終了。発見2群3頭(親子なし)。
- 0941 ライン19(定点37)着、観察開始。風力1~2, グレア1/3。
- 0949 ライン19(定点38)着、観察終了。発見3群5頭(親子1組), ほか2次発見(観察者の片側が陸のため、調査モードに入っていないときの発見)2群2頭。
- 0955 ライン20(定点39)着、観察開始。風力1, グレア1/3。
- 1000 ライン20(定点49)着、観察終了。発見10群20頭(親子なし)。
- 1003 ライン21(定点41)着、観察開始。風力2, グレア1/3。
- 1008 ライン21(定点42)手前着、終点の直前に島があったため、そこで観察終了。発見3群5頭(親子1組)。
- 1013 ライン22(定点43)着、観察開始。風力1~2, グレア1/3。
- 1018 ライン22(定点44)着、観察終了。発見5群7頭(親子なし)。
- 1021 ライン23(定点45)着、観察開始。風力2, グレア1/4。
- 1026 ライン23(定点46)着、観察終了。発見1群3頭(親子1組)。
- 1031 ライン24(定点47)着、観察開始。風力0~1, グレア1/4。
- 1036 ライン24(定点48)着、観察終了。発見2群5頭(親子1組)。
- 1041 ライン25(定点49)着、観察開始。風力1~2, グレア1/4。
- 1045 ライン25(定点50)着、観察終了。発見1群1頭。
- 1051 ライン26(定点51)着、観察開始。風力1, グレア1/3。
- 1055 ライン26(定点52)着、観察終了。発見なし。
- 1057 ライン27(定点53)着、観察開始。風力1, グレア1/4。
- 1100 ライン27(定点54)着、観察終了。発見なし。風がまだ弱かったので、渥美半島南の遠州灘に向ける。

外海の調査を予定コースとは逆の順番で調査開始。

- 1107 ライン 33 (定点 66) 着, 観察開始. 風ほとんどなく, 目視条件良好. 風力 0~1, グレア 1/4.
- 1112 ライン 33 (定点 65) 着, 観察終了. サーファー以外, 何も発見なし. この後, GPS の定点データの入力ミスで, 少時旋回飛行.
- 1124 ライン 32 (定点 64) 着, 観察開始. 風力 0~2, グレア 1/4.
- 1130 ライン 32 (定点 63) 着, 観察終了. 発見なし.
- 1139 ライン 31 (定点 62) 着, 観察開始. 風力 0~2, グレア 1/4.
- 1146 ライン 31 (定点 61) 着, 観察終了. 発見なし. 終了後, 風力, 片側で 3 になる.
- 1151 ライン 30 (定点 60) 着, 観察開始しようとするが, 風力が左右両側の観察者とも 3 になったため, 調査中断. 残り時間も少なくなったため, 調査を中止して空港に戻る. 途中, 東経 137 度線にそって北上.
- 1207 2 次発見 20 頭以上 (親子 2 組含む). 旋回して, 写真, ビデオ撮影実施.
- 1236 着陸.
- 1300 沖合は風が強くなりそうのため, 午後の再飛行を中止. 調査班解散.

5 月 17 日 (水) 天候不良のため, 調査中止.

- 0830 調査班, 名古屋空港集合. 朝から小雨.
- 0830 パイロットと打ち合わせ. 大王崎では視界良好も, 今後雨雲が東に広がり, 風も強くなるとの予報.
- 0900 気象通報を確認し, 雨雲が調査予定海域にも広がっていることから, 調査中止を決定.
- 0915 調査班解散.
- 1700 翌日は好天も風強いとの予報のため, 調査中止とする.

5 月 18 日 (木) 天候不良のため調査なし.

5 月 19 日 (金) 吉岡, 所要のため調査なし.

5 月 20 日 (土) 天候不良のため調査なし (南海上を台風 2 号が通過).

5 月 21 日 (日) 航空会社, 飛行機の先約があり, 調査なし.

5 月 22 日 (月) 伊勢湾湾口, 渥美半島南の遠州灘西方; 三河湾内 (再調査)

総飛行時間: 3 時間 47 分 (午前 - 2 時間 34 分; 午後 - 1 時間 13 分).

総発見群頭数: (午前 - 湾口部) 1 次発見 - 3 群 11 頭 (親子なし). 2 次発見 - 27 群 66 頭 (親子 20 組) (大半三河湾). (午後 - 三河湾再調査) 1 次発見 - 6 群 1

4頭（親子3組含む）。2次発見なし。

- ・ 朝から曇天で風弱く、目視観察条件は良好。湾口部の調査なので、風が心配であったが、ほとんど心配無用であった。
- ・ 湾口部で残っていた8本の予定コースをすべて終了後、いったん空港に戻る。
- ・ 一番北側のライン11（鳥羽沖）で発見があったのみで、それより南の大王崎沖までと、渥美半島の南の遠州灘ではすでに終わっていた3本のラインも含め、スナメリの発見はなし。他の鯨類の発見もなし。
- ・ 復路、三河湾を斜めに横切る形でコースをとり、三河湾上空を15分ほど飛行し、空港に戻る途中で多くの2次発見あり。
- ・ その後、帰路の三河湾でかなりの2次発見があったこと、16日の三河湾の調査で、一部の海域で片側風力3になるラインがあり、発見数に過小評価の可能性があること、当日の天候がまだよさそうであったこと、の3点から、午後、再フライトを依頼し、三河湾の再調査を実施。しかし、三河湾の西から4本のラインを消化した段階で、やはり風が強くなりだし、前回より気象条件が悪くなったため、結局調査を中断して空港に戻った。
- ・ 午後のフライトは結果的に失敗の形になったが、指定の条件下での調査はこの日までですべて消化。

（経過）

<午前フライト>

- 0830 調査班、名古屋空港内・中日本航空事務所に集合し、パイロットと打ち合わせ。天候に問題ないとのことで、調査開始決定。すぐに準備に入る。
- 0902 離陸。伊勢湾湾口部の最北ライン、ライン11に向かう。途中、ライン11手前で1群6頭（親子2組）の2次発見あり。
- 0932 ライン11（定点21）着、観察開始。曇天。風力1~2、グレア1/4。
- 0940 ライン11（定点22）着、観察終了。発見3群11頭（親子なし）。
- 0944 ライン12（定点23）着、観察開始。風力2（ごくわずかに一部白波）、グレア1/4。
- 0949 ライン12（定点24）着、観察終了。発見なし。
- 0954 ライン13（定点25）着、観察開始。風力1~2、グレア1/4。途中、漁船が数十隻密集している海域あり。
- 1000 ライン13（定点26）着、観察終了。発見なし。
- 1005 ライン14（定点27）着、観察開始。風力1~2、グレア1/4。途中でGPS信号とぎれる（このコース終了まで）。赤潮あり。
- 1011 ライン14（定点28）着、観察終了。発見なし。GPS、アンテナを交換して復旧。

- 1016 ライン 16 (定点 29) 着, 観察開始 (大王崎付近). 風力 1, グレア 1/4. 南北に長く赤潮.
- 1022 ライン 15 (定点 30) 着, 観察終了. 発見なし. この時点で, 紀伊半島側の湾口部の調査終了. この後, 渥美半島南岸の遠州灘で残っていた 3 本のラインの消化に向かう. 定点の番号を逆順に飛行.
- 1028 ライン 28 (定点 56) 着, 観察開始. 風力 1, グレア 1/3. ベたなぎ.
- 1038 ライン 28 (定点 55) 着, 発見なし.
- 1040 ライン 29 (定点 58) 着, 観察開始. 風力 1, グレア 1/3.
- 1049 ライン 29 (定点 57) 着, 観察終了. 間際に風力 2. 発見なし.
- 1053 ライン 30 (定点 60) 着, 観察開始. 風力 1, グレア 1/4.
- 1100 ライン 30 (定点 59) 着, 観察終了. 発見なし.
この後, そのまま北上して渥美半島を横断し, 三河湾に出た時点で, 定点 31 に向けて飛行. 三河湾を北西方向に飛びながら, スナメリの観察を続ける.
- 1104-1109 2 次発見 21 群 54 頭 (親子 1 8 組) の発見があり, 赤潮の中にもスナメリはいる. また, 防波堤のすぐそばまでスナメリがいた.
- 1136 着陸
<午後のフライト>三河湾の再調査を決定し, 調査班引き続き大気.
- 1320 調査班, 事務所に再集合. 少し風が出てきたがとりあえず飛行してみることにする. これまで使用していたセスナ機が所定の飛行時間に達し, 点検が必要になったため, 機体は別の同型機に変更. 観察準備.
- 1348 離陸. ライン 16 を調査するため, 定点 31 へ向ける.
- 1407 ライン 16 (定点 31) 着, 観察開始. 風力 2, グレア 1/2. 午前中ほど条件良くない. グレアもややきつい.
- 1410 ライン 16 (定点 32) 着, 観察終了. 発見なし. 途中, 赤潮あり.
- 1413 ライン 17 (定点 33) 着, 観察開始. 風力 2, グレア 1/2.
- 1416 ライン 17 (定点 34) 着, 観察終了. 発見 2 群 4 頭 (親子 1 組).
- 1420 ライン 18 (定点 35) 着, 観察開始. 風力 2, グレア 1/2.
- 1433 ライン 18 (定点 36) 着, 観察終了. 発見 2 群 5 頭 (親子 1 組). 途中赤潮あり. 島で 2 回中断.
- 1436 ライン 19 (定点 37) 着, 観察開始. 風力 2, グレアも 1/2.
- 1442 ライン 19 (定点 38) 着, 観察終了. 発見 2 群 5 頭 (親子 1 組). 赤潮あり. 島で 1 回中断. 目視条件, 思ったほどよくなく, 前回調査よりも成果の改善は望めないと判断し, ここで調査を打ち切り, 空港へ戻ることにする. そのまま陸上を通過して帰路

につく。

1501 着陸。

1510 事務所ですれまでの飛行記録を受け取り，調査班解散。調査終了。

3. 仙台湾～内房調査

3-1 仙台湾～内房調査（その1）

<調査機データ>

調査期間：平成12年4月30日～5月7日

使用機種：4人乗りセスナ機172型（機体番号JA3697）

航空会社：国際航空運輸（Tel:0223-24-2221）

空 港：仙台空港

パイロット：宮崎満

<調査経過>

海霧のため福島県沖で一部未調査部分が残った。また外房の調査は風のためすべて積み残し，再調査とした。

4月30日

仙台空港内，国際航空運輸にて調査の打ち合わせと機体のチェックを行った。

5月1日

Line5にて調査訓練後，そのまま調査に入った。仙台湾南部のLine6より，塩屋崎北のLine14までの調査を行った。風はほぼ無風。日差しも強くなかったが，沖合には500ftあたりより下に濃い海霧があり，全部を調査できないラインが多かった。

5月2，3日

日本海の低気圧のため雨。かなり雲が低いため，飛行に差し支えるとのことから調査を延期する。

5月4日

天候が回復。薄曇り。仙台湾北部（Line1-5）の調査を実施。風力は1から2で条件はよいが，南側にグレアがありやや見にくかった。

5月5日

竜ヶ崎飛行場にて調査の打ち合わせと機体のチェックを行った。

5月6日

鹿島沖（Line26）から北のLine15までの調査を行った。天候は曇りで，朝のうちわずかに白波ができる場所があったが，Line24以北ではおさまった。一部薄い霧があった部分がある

が、目視には大きな影響はなかった。

5月7日

空港での条件がよかったので離陸、犬吠埼以南の調査を試みたが、風が強く、Line27を飛行した後、帰投した。

5月8日

離陸し比較的風が凩いでいると想定された九十九里沖へ向かうがやはり風が強く、4本調査した段階で中断。その後、北へ戻り Line 28, 27 の調査を試みるがやはり波が高いため、調査を断念し空港へ戻った。

3-2 仙台湾～内房調査（その2）

<調査機データ>

調査期間：平成12年5月26日～27日

使用機種：4人乗りセスナ機172型（機体番号JA3905）

航空会社：新中央航空（Tel:0297-62-1271）

空 港：竜ヶ崎飛行場

パイロット：豊田敏幸

<調査経過>

前回風波のため、十分な調査ができなかった外房沿岸の再調査を目的とする飛行を予定した。5月26-28日を当て、外房海域に加え東京湾口にも調査ラインを3本（Line 32, 33, 34と同緯度）設置し、外房から東京湾側へは房総半島の先端を観察しながら移動することにした。

5月26日

天候は晴れ、午後から天気が下り坂との予報があったがとりあえず離陸した。犬吠埼（Line 27）から東京湾口（Line 37）まで一通りの調査を行ったが、ほとんどの部分で白波が立っており、まともな調査ができなかった。

5月27日

低気圧接近のため、天候悪化の見込みで調査を中止した。解散とした。

3-3 仙台湾～内房調査（その3）

<調査機データ>

調査期間：平成12年7月16日～17日

使用機種：4人乗りセスナ機172型（機体番号JA3905）

航空会社：新中央航空（Tel:0297-62-1271）

空 港：竜ヶ崎飛行場

パイロット：豊田敏幸

<調査経過>

ほぼ天候に恵まれ、2日かけて予定通りの調査を終了することができた。初回の調査で白波のあった Line25, 26 の再調査も行なった。

7月16日

鹿島灘 (Line 25) から南の調査を行った。鹿島灘沖合ではところどころ霧による目視の中断があった。外房の Line33 のあたりで白波が立ち始めたため、空港へ戻った。

7月17日

外房南部 (Line 33) から東京湾口までの調査をおこなった。外房と内房間のスナメリの分布状況を調査するため、Line34 から 35 の間は海岸線に沿って飛行し観察を行った。

自然環境保全基礎調査

海域自然環境保全基礎調査

海棲動物調査（スナメリ生息調査）報告書

平成13（2001）年3月

財団法人 海中公園センター

〒105-0002 東京都港区愛宕1丁目3番1号 三興森ビル7階

電話：03-3459-4605



